

## 現時点の会社の考え方

**「2020年度年末手当の水準を上回れるように検討していく」  
コロナ禍を理由に、またしても社員犠牲!?**

本部は11月11日、2021年末手当第3回交渉を行った。

会社の考え方として、2021年度は「JR貨物グループ中期経営計画2023」のもと、鉄道ロジスティクス事業では貨物鉄道事業の役割発揮とさらなる収益性の向上、総合物流企業グループへの進化、不動産事業のさらなる発展等の取組みを進めてきた。

しかしながら、前期に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う国内外の生産活動停滞による需要低迷及び、7月以降大雨による列車運休が発生し、特に8月12日以降停滞した秋雨前線の影響により、24日間に亘り中央線・山陽線が不通となり、多くの貨物列車の運休を余儀なくされた。この間、当社グループにおいては、利用運送事業者各社や行政機関の協力のもとトラック・船を活用した代行輸送を開始し、輸送区間・輸送力の確保に努めたが大幅な減送となった。

経費面においても、お客様需要や積載動向に合わせた列車の運転、輸送機材の効率的な運用、リスクシナリオ等の収支改善策で収入・経費両面をしっかりと実施し、10月期改定計画達成に取り組んでいく所存である。

会社として現時点では、「2020年度年末手当の水準を上回れるように検討していく」

## 到底受け入れられない・再考を求める!

### 【主なやりとり抜粋】

(組合) 会社として現状の経営状況等を鑑み現時点についての考え方を示したが「厳しい環境下においても指定公共機関として、昼夜を問わず奮闘する社員に対し期末手当で応えることは当然である。この間の会社姿勢は経営課題を前面にしたものでしかなく、社員には我慢を強いているだけである。社員犠牲で経営を続けている現状が不満ややる気が起さない根本原因であり、社員は正当な分配がされないことで疲弊している。社員に報いる姿勢が全く見られない本日の考え方は論外であり「再考を求める」。

(会社) 社員のおかれている現状や生活実態など、貴組合からのこの間の主張は経営に伝えてきている。引き続き社内議論を進めていきたい。

**10月21日付け闘争指示16号による要請行動を全力で取り組もう!**

**国鉄労働組合・全国貨物協議会**